

(様式1)

令和5年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立(積志小学校) 学校運営協議会長

<本年度の目標>

- ・学校や地域の現状や課題などを知ること
- ※コロナ禍で、学校・保護者・地域のつながりが薄れ、お互いのことがよく分かっていない状況があるため
- ・子供たちの学習の助けになるボランティアの充実
- ※家庭科のミシンや裁縫、調理実習などの授業のお手伝いや読み聞かせなどのボランティアを充実させる

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

- ・学校運営についてはある程度しか理解できていないと思うが、運営委員会のメンバーになったことで学校内の子供たちの様子や校長をはじめ先生方がそれぞれ工夫された授業に取り組んでいる様子がよくわかった。
- ・校長より「学校経営書」や「グランドデザイン」をもとに学校経営の基本理念について具体的な説明があった。育てたい子供の姿や教師の願いなどの内容が理解でき、他の委員の方とも共有できた。
- ・子供たち、保護者、地域、全体で安心安全な学校生活を送るための熟議や話し合いができた。

<評価項目2> 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

- ・全体やグループで協議をする中で、どんな支援が必要でどんな支援ならできるか、少しずつ明確になったことで、学習ボランティア、家庭科ボランティアなど具現化され、実施につながった。子どもたちにも先生たちにとっても、またボランティアとして参加した人たちにとっても好評で大きな成果となった。特に、保護者が学校に目を向ける機会になってよかったと思う
- ・各委員それぞれの立場で意見を出し合うことはできたと思うが、熟議の場で具体的な支援活動につなげるのは難しいと感じた。今後は、家庭科授業、図工授業、体育授業などのような実技授業や学習、交通ボランティアなど「学校応援団」の必要性を感じた。地域内に知識を有する人達がいると思うので、自治会や子供会、敬老会など範囲を拡大して協力をPRすることが大切だと感じた。

<評価項目3> 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

- ・保護者へは、ボランティアの募集も行い、少しずつ認知されていると思うが、地域への周知は現時点では不十分だと思う。協議会の必要性や活動を周知する為の方法やツールを検討していく必要があると思う。活動の様子など、紙面だけでなくその時の状況がわかるような写真を載せると、より興味を持ってもらえるのではないかと、あと、ボランティア名(名称)のようなものをつけ親しみやすくしたい。
- ・情報発信については、まだ課題が多いが、自治会、子供会、敬老会、保護者、協働センターなどに地域をまきこんだ学校支援(ボランティア)の大切さを知らせ、協力を求めていくことも必要と思われる。(回覧・ボランティアの紹介・アピール・ボランティア登録など)
- ・来年度に向けて、保護者にチラシを配付し、ボランティア募集のアンケートを実施したところ、120人の方から参加したいとの回答を得た。また、入学前説明会で託児ボランティアを行い数人の保護者が参加した。

<評価項目4> 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標(取組の重点)

- ・学校のニーズに合った学校支援ボランティアの充実
- ・地域への周知と協力体制の確立
- ・ボランティアとの連絡ツールの確立
- ・ボランティア名の決定(マスコットキャラクター、ワッペンなどの作成)